

発行責任者 東京都立向丘高等学校同窓会  
 会 長 宮 久 保 渡  
 編 集 会 報 委 員 会  
 事 務 局 〒113-0023  
 東京都文京区向丘 1-11-18 向丘高校内  
 T E L 03-3811-2022  
 F A X 03-3812-4055



九州太宰府天満宮 菖蒲池 小川力洋前会長撮影

## 同窓会活動のご案内 (やよい会)

### ①同窓会総会

平成 25 年 4 月 21 日 (日)

受 付 11:30 ~

開 始 12:00 ~ 12:30

会務・会計等の報告・審議

懇親会 12:30 ~ 15:00

場 所 駒込「磯太郎」

北区西ヶ原 1-55-27

T E L 03-5394-0511

会 費 ¥2,000 円 (他会補助)

申込方法 同封の振込用紙にて、  
4 月 15 日 (月) まで  
にお振り込み下さい。

### ②平成 24 年 25 年卒業生歓迎 成人を祝う昼食懇談会

平成 25 年 5 月 19 日 (日)

時 間 12:00 ~ 14:00

場 所 駒込「磯太郎」(同左)

会 費 無 料 (他会補助)

※卒業時の各学級幹事が、参加  
人数をおまとめの上、会長まで  
お申込下さい。

### ③全国大会

やよい会 千葉県千葉市大会

平成 25 年 6 月 16 日 (日)

時 間 12:00 ~ 14:00

場 所 J R 本千葉駅前

ホテルプラザ菜の花  
千葉市中央区長洲 1-8-1  
043-222-8271

会 費 ¥3,000 円 (他会補助)

申 込 同封の振込用紙で「そ  
方 法 他」の欄に、千葉会  
費とご記入の上 6 月 10  
日 (月) 必着にてお振  
込下さい。



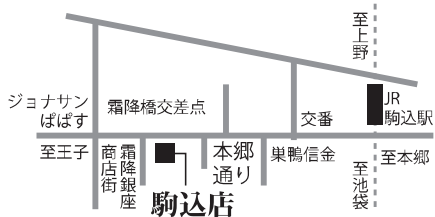
### ④学校訪問 (ホームカミング)

平成 25 年 9 月 14 日 (土)

~ 15 日 (日)

時 間 9:00 ~ 15:00

母校向陵祭 (文化祭) 音楽・演劇  
・研究発表あり P T A 展示室にて同  
窓会作品展示あり。一般会員の出展  
歓迎 (要連絡。宮久保会長まで)



### 総合問合せ先

〒171-0032

東京都豊島区雑司が谷 3-14-5

東京都立向丘高等学校同窓会

会 長 宮久保 渡

F A X 03-3981-4554

メール w-miyakubo@tuba.ocn.ne.jp

ホームページ

東京都立向丘高等学校同窓会

ご挨拶

同窓会と母校の飛躍と  
在校生の応援を!



同窓会会長  
宮久保 渡

一. はじめに  
 一昨年(2012年)の総会で、会長に選任されました。昭和四十五年卒の宮久保渡です。小川力洋前会長を始め、諸先輩のお力をお借りし二年目になりました。引き続き、同窓会財政の確立、名簿の整備、会報「やよい」の発行、学校・PTAとの緊密な関係の構築、そしてなりよりも毎年の卒業生がほぼ全員が加入するなど、従来の実績を踏まえて活動を展開してきました。しかしながら、課題もいくつかあり、この克服が早急に求められています。

①総会への参加人数が少ない  
 ②役員と会員・会員同士の交流が会全体に反映されていない  
 ③全体を網羅する幹事会体制の未整備  
 ④同窓会・同期会など情報の不徹底など

これらの改善を目指し、同窓会と母校の飛躍と在校生の応援を目指していきたくて考えています。

会員の皆様のご協力を心からお願います。

二. 総会・懇親会にご参加を  
 毎年、会報にて同窓会総会日の発表し、事業報告・会計報告・次年度計画の審議などを行い、議事を決議しております。今年も、学校ではなく、外の会場で総会を開催いたします。一般的なパーティー形式です。(お酒あり)

同期会・クラス会・クラブのOB会を開催したいと考えている皆様は、是非ご参加下さい。同窓会で応援を致します。多くの皆様が参加されますようお願いいたします。

また、全国大会・今年は、千葉県千葉市で開催致します。千葉県にお住まいの方は、こちらにもご参加下さい。

三. 二十四年・二十五年卒業生・新成人の皆さん  
 同窓会入会にあたり、卒業時に印鑑を贈呈しておりますが、今年も、同窓会入会歓迎昼食懇談会(ノンアルコール)を開催いたします。是非クラス幹事を通じて申し込みをして下さい。(ご招待です)

四. 入会金・年会費の拝受  
 入会金にしましては、一万有余の会員の皆様に、会報発行・発送をさせて頂いております。

年会費のご協力によりまして、会の運営が賄われています。貴重な財産として大切に、かつ有効に活用させて頂こうと感謝を申し上げ、尚一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

五. ホームページの作成、及び「やよい」の隔年配布  
 二十五年中に、同窓会独自のホームページを作成いたします。同窓会全体のもの、同期会・クラス会・クラブOB会サイトなど、会員相互の交流・親睦をはかるため作成委員会をつくり、準備を進めています。こちらのほうについても、皆様のご協力をお願いします。

また、ホームページ作成に関連し、同窓会会報「やよい」については寄付金及び会費納入者、二十歳までと六十五歳以上は全員配布、その他の会員については、年齢が偶数の年度の方のみに配布いたします。

同窓会総会報告

同窓会総会は、二十四年四月二十二日(日)十二時より、上野駅近くの和食の店でパーティー形式を持って開催されました。従来は、学校のホールで開催していましたが、昨年より外部の店で開催することになりました。

総会は、杉浦副会長の司会で開始し、宮久保会長挨拶、櫻井幹事長の音頭による、校歌斉唱を経て、議事に入りました。議長は、規約に従い、宮久保会長がつとめ、  
 ①報告事項 ア、事業報告(笹山書記)イ、決算・監査報告(尾道会計)それぞれ満場一致で承認されました。引き続き、②審議事項 ア、事業計画(佐々木書記)イ、予算案(尾道会計)ウ、役員選任(宮久保会長) 新役員 仙谷剛(四十五年卒)副幹事長、日黒利枝(六十二年卒)書記を選任し、他の方は留任を提案しました。それぞれの審議事項についても、満場一致で承認されました。

続いて、懇親会に入り、小川力洋名誉顧問より乾杯の発声をもって、和気あいあいの中で進行していきました。来賓として、神能精一校長・関根茂前校長・石塚知美PTA会長のご臨席を戴き、それぞれご挨拶を戴きました。引き続き、各自の自己紹介と近況報告を戴きました。特に、札幌地区幹事の恩村一郎氏が遠路はるばる参加戴いた事に、この紙面を借りて感謝を申し上げます。

最後に、お楽しみ抽選会が行われ、ミニサイクル・豪華食事券を始め、多くの

景品が用意され、全員に何らかのものが当たり、満足をされたことと思います。参加された皆様、有難う御座います。今年も友人をお誘い参加されますことを願っています。(役員記)





## 確かな学力を目指して



校長 神能 精一

同窓会の皆様、平素より本校を応援いただき誠にありがとうございます。宮久保同窓会長を始め同窓会役員の皆様方の暖かいご支援に深く感謝いたします。

着任以来一年、本校同窓会「やよい会」の活発な活動は、四月の総会、五月の卒業生歓迎昼食懇談会、六月の全国大会、さらにホームカミングとしての九月の向陵祭への参加と続き、一年の締めくくりとして会報「やよい」の発行、本当に充実した活動をなさっていると感じてきました。また、近々ホームページも立ち上がると聞いています。活動がいつそう充実していくことと頼もしく感じています。さて、本校はこの数年、生活指導の充実強化に取り組み、一定の成果を挙げていることはご存知の方も多いと思います。このことは単に頭髪、制服化等外見に止まらず、授業規律、生活規律をきちんとさせて、生徒一人ひとりの学校生活を充実したものとさせたいとの思いで強化してきたものです。手をかけ愛情をこめ、厳しさを実践してきたと自負しています。この実績の上で、次なる課題は学力をつけさせて、生徒一人ひとりの進路実現を支援することだと強く思っています。

学校は、ある時期に多くの仲間と同じ場所、同じ空気を吸い、行事や部活動そして勉強とさまざまな取り組みを共有して、一人ひとりの人生のページに思い出を残していく場でありたい。そこに学校生活を過ごす大きな意味があります。だからこそ、「同窓」への思いもあって私は考えます。

しかしながら、学校は単に思い出の場所ではなく、人生を生きるための「確かな学力」を付けさせて世に送り出すことが使命だと考えます。確かな学力を付けることは、当面の進路実現を達成することとはもちろんですが、本校の校訓にもある「自主」すなわち、自分で考えて主体的に判断し、行動できる力の基盤となるのです。そして、この「自主」こそが「生きる力」の根本だと考えます。

人は社会に出て学び続けなければなりません。生活していく基盤には、学ぶというものがあって、しかもそれは強制的なものではなく、生きていくうえでの主体的な喜びや楽しみそのものです。そのため、学校は学ぶための技法と学ぶ喜びというものを身に付けさせることが求められているのだと思います。

社会では「問題も答えも自分で見つけて」いかななくてはなりません。そのためにも、さまざまな課題数をこなすのではなく、課題に取り組む姿勢をじっくり学び、身に付けることが必要です。これまでも、高校では教師が「正解を用意」し、正解を目指す勉強が主でした。今、求められている学力とは、課題を解決するにはいろいろな方法があり、正解はひとつではないことを学び、一人ひとりが課題を解決していく力を身に付けさせることです。

その原動力となるのは、課題を解決していくという意欲、すなわち学ぶ意欲です。しかし、どれだけ学ぶ意欲を高めても、知識が不足しては学ぶ喜びにまでいたりません。学ぶ喜びを味わうためには、持てる知識を総動員してネットワーク化したり、再構成したりして新しいものを作っていくことが必要です。その際、活用できる基礎知識は多ければ多いほど有効ですから、高校までは知識を蓄積することも重要となります。

こうしたさまざまな要素を踏まえて、

向丘高校生として恥ずかしくない「確かな学力」を身に付けさせて皆様の後輩として世に送り出したいと考えています。今後とも、同窓生の皆さんや先生方とともにこの伝統ある向丘高校を名実ともに充実発展していきますのでご協力、ご支援よろしくお願ひします。

## 向丘高校の現在



副校長 八百板 真弓

平成二十四年四月に着任いたしました。宮久保渡会長を始め同窓会の皆さまには日頃から様々な御支援を賜りましてありがとうございます。

平成二十五年一月四日現在、生徒数七八八名です。一学年七学級二八一名、二学年六学級二三七名、三学年七学級二七〇名、また、男子三七三名、女子四一五名です。

都立高校は平成二十四年二月に策定された「都立高校改革推進計画・第一次実施計画」に基づいて、各校が生徒の実態等を踏まえて改革を進めています。

目標1は「社会的自立の基盤となる力の確立」1 学力の定着と伸長、2 道徳性の涵養、3 体力の向上と健康です。学び舎として、本校は何より「学力の定着と伸長」に力を入れて取り組んでいます。学力向上開拓推進事業を実施しています。都立高校入学者選抜における学力検査や学力調査(年二回)等のデータ分析に基づき生徒の学力の実態を客観的に把握し、次の到達目標や目標到達のための指導内容・方法を定めた「学力向上推進

進プラン全体計画」「教科別学力向上推進プラン」を作成し、授業実践、学力定着度の再確認、プランの改善という一連のサイクルを毎年継続することにより、指導内容や方法を改善し、生徒一人一人の学力を最大限に伸ばすというものです。本校では平成二十四年度に学力向上開拓推進委員会を新設し、PDC Aの進行管理、生徒による授業評価の結果分析、授業研究、「向丘高校学力スタンダード」設定に向けた検討等を行って参りました。

また、「道徳性の涵養」については、従前より一学年の総合的な学習の時間「奉仕」等を通して、地域と連携して生徒の社会貢献意識を高め、実践的な態度、能力を育成してきました。今年度は、新たに防災教育推進委員会を設置し、文京区駒込警察署、本郷消防署、本郷消防団第三分団、保護者等を委員として御協力をいただき、連携して年四回の避難訓練、宿泊防災訓練を行い、防災教育の充実を図っています。生徒による実践を中心とした防災教育を展開し、自助の力と共助の精神を育み、高い社会貢献意識と実践力を兼ね備えた人間の育成を図ることは喫緊の課題です。

「体力の向上と健康」については、「総合的な子供の基礎体力向上方策第一次推進計画」を踏まえて、体育の授業等の質を高め、体力が重要であるとの意識を生徒たちに醸成するとともに、入学者選抜

《推薦に基づく選抜》で文化・スポーツ等特別推薦を実施している剣道、バレーボール女子を核として部活動の振興を図り、生徒の競技力の向上を進めています。

さて、今年度本校の学校経営計画の眼目は「組織的な学校運営とOJTの推進」であり、前年度までとは異なる組織的な取組が着実に進行しています。同窓会の皆さまには引き続き御理解、御支援を賜りたくどうぞよろしくお願ひいたします。

# 同窓会だより

## 「十二月二十九日の向丘55年会」 一年B組(帯津先生担任) 世話人代表 浦野良一

今回も恒例の十二月二十九日に二十八名の参加をいただき、『向丘55年会』を開催することができました。お互いに風貌・容姿が三十数年の人生を経て変り、いい大人(おじさん、おばさん?笑)になってはいますが、たちまちその時代にワープし満面に笑みのこぼれる楽しい会になりました。

毎年この日に開催するこの会を『向丘55年会』と称するのも、多くの昭和五十五年卒業生の方には僭越で失礼かと存じますが、約三十年前より前身の「一年B組同級会」から細々とではありますが継続して旧交を温めてまいりました。



部活動(籠球部)やそれぞれの学年で過ごした私の3年間の向丘高校生活の中で、一年B組(帯津先生担任)当時の仲間との思い出は特に楽しく印象深いものでした。昭和五十五年卒業生としてして旅立ち3年後(当時二十一歳頃)の親友である中瀬・浅野・中野・戸部・東條と「一年B組同級会」の世話人(幹事)会を発起したのがこの会が始まりでした。その当時は五く十人で一泊二日の九十九里浜への海水浴や山中湖のクラブハウス、一年B組同級生(石田君)の経営していたペンションや蔵王スキー場に出掛けたり、家族(奥様・お子さん)同伴での秋川渓谷での日帰りパーベキュー、十二月には忘年会も行うなど毎年何かしらの「集まり」を開き親交を深めてまいりました。私自身は平成三年(一九九一年)三月に札幌への転勤が決まり、「数年はこの会に参加が出来なくなってしまうな」と、残念な思いで引越していきましたが、その後は中瀬君が中心になり何かあるにつけ皆で集まっていたようです。

ところが私が転勤したその年の暮れ、大親友の訃報が札幌に届きました。中瀬君が取り仕切った忘年会の翌日に、その本人が事故により帰らぬ人となってしまったのです。十二月二十九日、享年二十九歳で他界してしまつたのです。

年月は流れ幾度かの転勤と引越しの後、私は平成十七年(二〇〇五年)に埼玉に居を構えました。以来、大親友である『故・中瀬』君が最後に世話人代表として取り仕切っていた十二月二十九日にこだわって、現在まで世話人代表を担当しています。この「会」はもとも「一年B組同級会」から始まり、『故・中瀬』君を偲び旧交を温める有志の集まりではありませんが、少しづつ参加者の輪も広がり今では昭和五十五年卒業生が集まる会になっていきます。毎年参加いただける方や隔年あるいは三々四年毎に参加いただける方など毎

年同じメンバーではないのですが毎回三十名程出席いただいています。幾つになっても向丘高校卒業生としての誇りを胸に絆を深め、笑顔で語り合える十二月二十九日の『向丘55年会』を一年でも長く開催していけるように世話人(幹事)の大親友とコミュニケーションを取り合いたいと思っています。それは皆、中瀬君がいつまでもこの会と一緒に参加してくれているという想いがあるからです。

### 「軟式テニス部OB会(向庭会)」



昭和四十一年卒  
谷嶋 一三男

### 「向庭会開催」

向丘高校の軟式庭球部のOB会を向庭会と称し、以前は良くOB会を開催していたものです。最近では、全く開催が無く、少し懐かしく、思っているのではないかと察しております。そこで、同窓会の会長が代わり、新会長が軟式庭球部だったこともあり、同窓会の日程に合わせ、向庭会の皆様にもご参集願いたく、ここにご案内申し上げます。同窓会の詳細はこの会報をご覧ください。

向庭会の方の現住所が不明で、連絡が取れない方も、増えてきていると思いますので、同窓会の会報を利用していただきまし。向丘軟式庭球部の卒業生は、本年の同窓会に参加しましょう。合わせて、同窓会を盛り上げましょう。また、他のクラブのOB会も、今後順次、同窓会に合わせて開催するのは、どうでしょうか。〔無病息災・一病息災・多病息災〕

からだに関することわざは、あるネットのデータベースによると、八八個ありました。これに格言、健康にかかわることを入れると、さらに多くなります。古来から、生活の中で関心の高いことは、五穀豊穰、長寿、子孫繁栄、無病息災であり、お祭りや、祈禱の際に祈願されることでもあります。また、これらは、国家安泰につながり、大切な事柄でもあります。なかでも、無病息災が一番大事なことと考えることができます。健康であれば、労働も子孫づくりにも支障なく行え、また長寿になる可能性も高いかもしれない。しかし、今日の高齢者社会において、既往症を持っておられる方も多いようです。また無病息災には長寿の意味は含まれていないようです。長寿は、一病息災の、生命にかかわらない程度の病気を持っているが、それに気をつけて、無病の人より長生きすることあります。一病息災の方がよい場合もあるということです。然るに、医療の進んだ現代の世の中に相応しい言葉として、多病息災ということわざを作りました。多病でも元気な方は多いのではないのでしょうか。また、既往症があってもよくよせず、何か目的をもって生活していくことが、大切なようです。





若さで頑張った十年間



昭和四十八年卒  
元副会長  
清水 克多郎

小川会長におかれましては、長い間、都立向丘高等学校の会長職大変お疲れ様でした。会長職も実際に経験しないところ苦勞度合いが分からないと思いません。

私も思い返せば、平成元年、突然、人事発令が出まして、大阪に行く事になり、連絡もせず異動してしまいました。大変失礼いたしました。当時のことは、はっきり覚えておりませんが、覚えていた範囲で御報告致します。昭和五十二年頃から平成元年三月まで向丘高校の同窓会をお手伝いさせて頂きました。ほぼ十年ぐらいたと思います。星会長の補佐役で大したことはないとおもいません。当初、荒川さんのお宅の長寿庵で毎年準備会を開き、四月二十九日に総会を開いておりました。

総会では、毎年百名くらいは参加があったと記憶しております。今、思うと毎年四月二十九日の総会のお知らせ準備に向けて先輩・後輩の方たちと頑張った記憶がございます。最初の頃、牧野会長(当時、文京高校の現役の先生から星会長へのつなぎで、一時、同窓会を運営するお手伝い)に出席しておりました。当時は、向丘高校の先輩の一人であるNHKの千田正穂アナウンサーや慶応大学の講師をされていた松本さんなども時折参加されておられ、個性のある諸先輩方も時折、顔を出されておりました。星会長も暫定の会長引

き受けということだったと記憶しております。仕事がお忙しく、総会の準備には、必ず、お見えになつておりました。が、常時、参加できない状況でした。同窓会役員同士で結婚したカップルもいてもう少しで後輩の同窓会幹部も育ちそうな兆しもありましたが、転勤でその後が見えてきませんでした。申し訳ございませんでした。

ただ、同窓会名簿の作成準備も何回も会合を開き準備をいたしました。最後の製本をすることが出来ず、業者にお願ひする算段で学校の校長先生に相談いたしました。が、名簿の個人情報業者を任せることが問題ありとのことで未完成のまま途中で断念した記憶がございます。当時のことを振り返ると、若さゆえの勢いでやっていた記憶がございます。

私の母の介護もあり、今では、土日に病院へ行くことが毎週の日課になつております。今後も、同窓会のお役にたてませんが、近況方々報告させて頂きました。

《※やつと消息を掴めた立役者》  
小川力洋談

清水副会長を支えて数年間



昭和五十九年卒  
相談役 千田 二仁江  
(旧姓 樋口)

向丘高校の卒業を目の前にして、同窓会幹事を引き受けた。クラスでは他の人に決まっていたが、友達との一緒にやろうよという盛り上がりの中で、譲ってもらった。振り返ると、そ

うか この時から張り切っていたのだ。役員からの連絡で、今年度の幹事が決まった。すでにその段階で、全員は集まっていた。役員もお一人で、とにかく懇親会を盛り上げるためにお膳立てをしていた様子だった。自分も友達と楽しみながら、役員を助けたという準備を進めていた。

この頃の懇親会は新卒生が殆どで、久しぶりに会った同学年の仲間が、ピントをしたり高校時代を懐かしんだりしながら、大騒ぎをしていたように思う。幹事としては、みんなが楽しんでるのを喜びつつ、初めての大きなイベントの戸惑いもあった。今回の経験を活かして、次はもっと手際よく仕事をしたいと思ひ、翌年以降も仕事を続けた。一緒に幹事を続けた友達がいた事や、初めて話をする後輩たちが気持ちよく自分を受け入れてくれた事も大きかった。

何年かして小川力洋氏が会長となり、同窓会自体を整えていこうという大きな流れが突然やってきた。会長の力強い舵取りの下、役員全員(いつの間にか、自分も幹事から役員になつていた)が顔を合わせ、仲良く楽しくやりがいを持って、同窓会自体を盛り上げて行った。懇親会に参加する年配の方たちも急激に増えて行った。

子供が生まれ、総会で泣く子を抱きながら会計報告をした時、「これぞ同窓会のよさ」と笑顔でフォローしてくださった会長や、皆さんの温かい声かけが今も思い出される。役員を引き受ける前から変化に戸惑っている若輩者の自分を励まして、仲間として受け入れてくださった当時の役員のみなさんには、感謝の気持ちでいっぱい。現在は同窓会の一会員となり、同窓

会のお役には立てていない。それなのに相談役として名前を残して下さっているそのお気持ちにこたえようと、依頼された原稿が子育てと仕事に追われる生活の中で、思い起こして記しました。いつかはまたお役に立てたいという心のゆとりを持ちながら、生活して参ります。

小川会長勇退で仲間であらう!!



昭和三十一年卒  
山本 越子  
(旧姓 福永)

この会報がお手元に届くころ、八期生は政府公認の高齢者になる、振り返れば、ずいぶん長い時間が過ぎた。

卒業後、どんな道を歩いたのか、一口ではとても語れるものではないだろう。なにしろ五十七年という月日がながれてしまったのだから。残念ながら道半ばで潰えた友人もあまたいるだろうが、正確にはわからない。

そんななか、突然一人の人物が名乗りをあげた。卒業時、三年B組にいた松尾勝司さんである。

八期生は、昭和二十八年四月入学、三十一年三月卒業。戦後十年経っていたが、今とは何もかも比較にはならない時代である、高校へ入学したとは言え、諸々の事情で彼は欠席がちだったとか。卒業後も友人とは没交渉のまま過ごした。

余生と呼ばれる時期に入り、振り返れば、やり残したことの中に、昔の友人に会うこともあったのだろう。

昨年同窓会前後、つてを頼りに三田昌男さんに電話があった。三田さんは彼に、名簿や卒業写真などを提供した。

それからの彼は、ブランクを埋めるように精力的にあちらこちらと電話をしまくる。そして小川前会長宅まで訪問したという。

「ああ、松尾くんね、覚えてるよ。人生や将来なんか、語ったよね」と反応のあった人、「うう、ちよつと記憶にないなあ」というそっけない返事の人。さまざまだが、彼にとつては充分な手応えだった。

連絡のつく仲間を繋げ、何回か、旧交を温めたらしい。

そして、小川前会長を囲んで一献やろよよ。とまとまった昨年十二月、駒込駅近辺の魚料理の店《磯太郎》にて集合がかかる。

集まったのは同期生ではあるがほぼ初対面という五人。小川力洋氏・木村隆氏・高橋元彰氏・山崎久磨氏・そして私と松尾さんの六人が集まった。

はじめは手探りだったが、近況報告などするうちに打ち解けてきて、当時の記憶に残る先生や友人の噂話、武勇伝など話に花が咲き、懐かしい時間が戻ってきた。

気が付くと三時間ほどが過ぎ、今回はお開きとなったが、店を出て別れの挨拶を交わす頃に、酔い覚ましめく夜風は心地よいものだった。

七十五歳は、だれが考えたって長い将来があるとは思えません。会いたい人には、積極的にアタックしてみましよう！

同期会から、次はクラス会を!!



昭和四十一年卒  
尾道 郁代  
(旧姓大橋)

今年も同期会の案内がきた。

四十一年卒の十八期の同期会は二年毎に谷嶋三男さんが中心で呼びかけて下さいます。今年は九月二十九日に東洋文庫オリエント・カフェで行いました。恩師も高齢になって在校時一番若かった齊藤源三郎先生だけが参加して下さいました。毎回お会いできる人とは親しく話はずみみずみ。今回は卒業以来初めて参加して下さいました西村さんはブラジルに長年滞在していたとのこと。中国で起業した千脇さんも同期会にあわせ、一時帰国し参加して下さいました。

異常気象の暑い夏でお互い体を心配しあう年令になりました。

それぞれの家族の事情をかかえての同期会参加はそれなりに生きる励みになります。

在校中G組だった名越さん、今は吉江真知子さんが「クラス会をしたいわ」とおっしゃっています。温かくなったらお誘いの案内を差し上げますので都合のつく方はぜひお返事をお願いいたします。横浜方面で考えております。



同窓会のあゆみ



前同窓会長  
小川 力洋

向丘高校二十年記念誌の牧野茂(昭和二十九年)氏によると、新旧制度の数の前身校をも含めて同窓会を一本化し、初代幹事長として

A 小林秀之(昭和二十七年)氏が昭和二十八年十一月に起会した。  
第一回総会を昭和二十九年四月二十九日に開催すると定時日、会則等を定めた。

会員相互の親睦と母校との連携を密にし、協力をモットーに運営することとなった。

B 昭和三十三年に平野秀夫(昭和二十九年)氏が幹事長となり、体育館講堂の建設に向けて都議の四宮久吉、赤沢光吉先生方に積極的に働きかける運動を起こした。この頃の卒業式は東洋大学講堂で行った。

定時総会の場所は母校中央部に昭和二十八年二月に完成した平屋の打ち抜き教室で行っていたが、昭和三十三年からは台東区の山口ホール、昭和三十四年四月には新宿東京会館にて行ったそうです。

同年十月に念願の体育館が落成し、以後はこの体育館にて開催されることとなった。その年により集客はさまざまだったそうですが、総会後では、当時はやりのダンスパーティーが盛会だった様です。

C 昭和三十五年から磯武福(昭和三十年)氏が幹事長となり演劇部OB会

によるアトラクションを入れて盛り上げていた。

昭和三十八年からは会員増となり宛名書を、外部に依頼することとした。

D 昭和三十九年から鈴木重雄(昭和二十九年)氏が幹事長となり、同窓会館建設の計画が話題となり、会費を五百円から千円にと規約改正し、資金の補助に充当しようと活動した。

これは昭和四十二年四月からとなった。(入会金は総額三十六万円だったそうです)

これまでは幹事長という名称だったが、今後名称を会長とした。

E 牧野茂(昭和二十九年)氏が会長として、昭和四十二年より昭和五十二年迄勤めた。

昭和五十二年十月六日創立三十周年と新三号館(現B棟)落成記念に携わった。

昭和四十四年十二月十五日より昭和四十五年六月二十九日(藤黒正明校長時)安保廃止運動として全共闘・ベ平連が学内バリケード封鎖やテスト拒否の問題を起こしていた。

F 星直正(昭和二十九年)氏が会長として、昭和五十三年より昭和六十二年まで。

反町文雄(旧姓佐藤)(昭和四十五年)清水克多郎(昭和四十八年)の両氏を副会長として、年度毎の幹事多数を組織して同窓会の総会・懇親会を継続しておりました。

私(小川)が引き継ぐ辺りの記憶では、清水克多郎氏と千田(樋口)二仁江さんがリーダーとなり、会の運営を行っていましたが、これを鮮明に覚えておりません。所がそれぞれに中絶してありますが、この節になり、連絡がとれましたので、報告文を後に掲出させて頂き



ます。  
 尚、一連の活動の中で荒川雅司（昭和三十年）氏（平成十五年十二月十九日逝去）は会計担当責任者として、永い間お勤め頂きましたことも特筆いたします。

### 五十周年の時

#### 「同窓会この十年の足跡」

昭和六十二年の総会後に役員会で会長に指名されました。同僚の応援で組織作りを開始。同窓会活動とは何を成すべきか検討しました。

①総会の周知と勧誘 ②会員同士の交流 ③母校の現状広報 ④会費の効果的活用 ⑤卒業生名簿の確立以上の事柄を重点目標とし、まず会報作りを進めました。そして会員への送付を考えた時、宛先が問題となり、何としても総合名簿作りへと余儀なくされました。八方検討の上、ノンリスクと諸好条件と見て、業者選定を行い待望の第一弾が四十周年記念として平成二年に発刊されました。また、本年五十周年を機し三月第二弾を発刊することができました。

今年三月二五八名の新卒者を迎え一五、五二二名が卒業生総数となりました。毎年一回の発行で第九号誌を一万部印刷し、全国の住所判明会員宛約九千通発送と現役等に配布し、唯一のコミュニケーションの場として、貢献できているものと信じております。今後は総会、懇談会と、母校の向陵祭Ⅱ学校訪問（九月下旬日曜日）を定着いたします。人格形成期にお世話になった母校に感謝いたしております。

### 六十周年の時

#### 「同窓会の絆・開放がたより」

母校の創立四十周年、五十周年、そして六十周年記念を迎えることに携わることができ、誠にめでたく歓喜に堪えません。卒業生総数一七、五八四名を全国に送り出してあります。その中で住所判明者一万余名に会報を送付しております。年に一度のみのお届けですが、母校・我が会の活動記録等を発表・報告し、総会には参加できない会員さん方との「同窓の絆」を保とうと推進・継続してきております。

これらの費用は、決算書内訳にも提示しておりますが、突出したものと納めております。その財源はすべて新卒業生からの入会金によって賄われているのが現状です。幸いにも現段階では、学校・生徒・保護者の皆様のご理解をいただきまして遂行することが可能となっております。各位に感謝申しあげらる次第です。

この何年かにわたって、新卒業生（入会歓迎会）・卒業二年目生・三年目生（新成人を祝う会）と銘打って、総会（例年四月第三日曜日）に引き続き懇親会を開いております。各年ごとに級単位の担当幹事さんを選出していただいております。その方々のクラスメイトに葉書等でお呼び掛けを願っております。現在のところ全員が参加されるまでには至りませんが、対象者は無料で行っております。気易い同窓会と認識いただきまして、今後一生涯への「母校愛」を培って欲しいものと期待申し上げます。未永く繁栄あれと信じ、各位のご健勝を祈念いたします。

## ひろば

### 都電・白山上 （学校の裏門近くの駅名）のこと



昭和三十一年卒  
川端 春生  
（旧姓・三橋）

向丘高校の裏門という存在の記憶が確かではないが、裏であったことは間違いない。校舎改築のとき、プレハブ校舎の入り口がこの辺りだったと思う。その時の、北村校長先生に誘われて、お茶をいただいたことがあった。

白山上は、都電・十八系統の駅名である。一九四四年十月、巣鴨車庫―志村坂上間が開通して全線が開業した。志村坂上―小豆沢町―蓮沼町―清水町―大和町―板橋本町―仲宿―板橋区役所―板橋五丁目―板橋駅前―滝野川五丁目―西巣鴨―新庚申塚―巣鴨四丁目―巣鴨車庫―巣鴨駅前―西丸町―駕籠町―北部原町―南部原町―曙町―白山上―指ヶ谷町―八千代町―小石川柳町―初音町―春日町―後楽園―水道橋―三崎町―神保町―一ツ橋―錦町河岸―神田橋

志村線・板橋線・巣鴨線・白山線・水道橋線が繋がってできた路線である。白山という地名は、白山神社が由来という。白山神社縁起によれば、九八四年（天歷二年）に加賀一の宮の白山神社を分祀し、この地に祭ったとある。徳川綱吉の信仰が厚く、近くに綱吉の御邸があったので、白山御殿町という

名があった。学校の裏に、金龍山大園寺があり、境内には「八百屋お七」にちなんだ焙烙地藏がある。徳丸が原で洋式砲術演習を行った高嶋秋帆の墓が有名である。また、樋口一葉を終生援助した齊藤緑雨もここに眠っている。

本郷の哲学館が、一八九七年にこの地に移り、「白山の哲学」といわれた。現在の東洋大学キャンパスである。

中山道沿いの駅には、駕籠町―江戸時代に將軍の駕籠担ぎ人がこの地に土地を与えられ、住んだことからこの地名がある。庚申塚―中山道と王子道の交わる立場（休憩所）として賑わった。とげぬき地藏（高岩寺）で有名である。板橋宿は中山道の最初の宿場、川越街道の起点でもあり、賑やかだったようである。

本郷通りと中山道に挟まれ、名所旧跡に囲まれた向丘高校、思い出深い、心温まる母校だった。新しい校舎で学ぶ後輩のみなさん、母校を愛し、ますますのご活躍を願ってやまない。

平成二十四年十二月



全国大会(浦和大会)報告

浦和大会は、二十四年六月十七日(日)午後二時より、浦和駅前の和食店で開催いたしました。

当日は、同窓会幹事八名、埼玉県在住者七名計十五名で開催されました。

いままでの全国大会は、現地在住の方の参加が少なく寂しかったのですが、昨年は多くの方の参加を戴き盛り上がった会を開催出来ました。有難う御座いました。(さいたま市在住者に呼び掛けのハガキを出し



ました。)

学校と同窓会の近況報告をし、それぞれの方からの報告を受け、懇談が深まりました。

参加者の皆様には、今後とも同窓会へのご支援をお願いしまして、終了致しました。

今年は、千葉市で開催いたしますので、千葉県在住の方はご参加をお願いします。



その他報告事項

① 母校体育祭・向陵祭 写真参照(九頁)

② 谷嶋二三男氏(四十一年卒)大学教授母校在校生一・二年全員に講演実施二十四年十二月十三日 講演内容「高校と大学の授業の違い」「規則正しい生活とバランスの取れた食事・スポーツは、頭脳を活発化する」等。生徒たちは熱心に聴いてました。今年も在校生への応援活動として実施します。

多くのOBの皆様の講演を期待しております。自薦・他薦で適切な方をご紹介します。③ 在校生に、冬制服・体操着をおくりました。昨年ひとりの在校生の自宅が全焼しました。同窓会は、学校・PTAからの依頼を受け、役員会の承諾を経て、実施しました。今後とも、様々な形で在校生の応援をしていきます。





PTA 会長挨拶



PTA 会長  
高田 教子

今年度 PTA 会長を務めさせて頂きま  
す高田教子です。  
今年度、入学致しました一年生の息子  
の保護者です。そんな私が会長を務めさ  
せて頂くことになったのには、本校と深  
い「ご縁」を感じたからでございます。  
私の父は本校の卒業生です（昭和十三年  
生）。私自身も受験はしたものの学区制  
の割り振りのため他校に入学致しました。  
その父と同じ誕生日で、父から名前の一  
字をもらった三男が父と同じ高校を受験  
すると云った時は本当にびっくり致しま  
した。息子には父（息子にとっては祖父  
ですが）が卒業生であることは話してお  
りましたが、このところの都立高人気  
本校の合格倍率は都立高校の中でもトツ  
プクラスと狭き門となっており、合格は  
なかなか難しいと思っておりました。ま  
た、入試の十日前に足を骨折するトラブ  
ルにみまわれながらも本校に入学出来た  
のは、本人の努力はもちろんですが、「ご縁  
あつてのことと深く感じずにはいられ  
ません。この「縁」を「絆」に変え母校  
を大切に守って頂いている同窓会があれ  
ばこそ、在校時のみならず卒業しても母  
校を大切に思う気持ちが生まれ、また「絆  
を生み育てて母校を誇りに思う同窓会生  
が増えていくと私は思います。昨今、学  
校教育問題が色々ある中、学校と同窓会  
PTA が協力しあってこれからの社会を  
担う子供たちを社会に送り出す事が出来  
る、その体制を作りあげて頂いている同  
窓会の皆様に保護者の代表として感謝し  
同窓会のこれからのご発展をお祈りして  
おります。

また、昨年は火事に遭われた生徒への  
火事見舞いとして制服の購入を頂き本当  
にありがとうございました。無事学校に  
登校出来ました事ご報告させて頂きます。

# 体育祭



( P T A 会 報 よ り 転 載 )

# 向陵祭



ダンス部  
Fantastic Dance Time



吹奏楽部  
It's Show Time!!



ヴォーカル  
アンサンブル部



# 寄付者・会費納入者一覧



平成24年度中に寄附金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)  
 尚、3,000円以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。  
 ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。  
 尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(25年1月末日)

### 寄付者名一覧

- ◆旧職員  
長田 英方  
板井 哲夫  
東 祥三  
池永 武昭  
◆S24年卒  
新井キミエ(石川)  
板垣 勝代(戸張)  
宮下 明子(小野)  
◆S25年卒  
畠田喜久子(福田)  
◆S27年卒  
関岡 節子(東野)  
大井 弘子(市川)  
木村 弘子(川島)  
衆 幸子(江森)  
林 陽子(加藤)  
◆S28年卒  
中西多恵子(山田)  
番田 恒彰  
小口トシ子(飯塚)  
丹羽 妙子(加藤)  
◆S29年卒  
星 直正  
長井 広美(岡戸)  
上杉 益子(大沢)  
中村香代子  
瀬沼 勝  
◆S30年卒  
牧田 信行  
大島美智子(裕)荒井喜美子  
◆S31年卒  
高橋 元彰  
松尾 勝司  
木村 隆  
沼田 敬二  
石山 登  
川端 春生(三橋)  
増子 明美(若尾)  
高尾 和子(杉本)  
小川 力洋  
三田 昌男  
山本 越子(福永)  
◆S32年卒

- 奥村 正明  
櫻井 弘清  
◆S34年卒  
森木 紘子(大田)  
永田 正博  
壬生田紀夫(三浦)  
山村 正紀  
島山 早苗(上田)  
立花 玲子(古川)  
石井彼早子(佐伯)  
◆S35年卒  
五十嵐光俊  
伊藤 述弘  
関口 巨彦  
山口ひろみ(清水)  
能州 良彦  
友部 佳子(立川)  
◆S36年卒  
松垣 宏道  
岩井 和子(大野)  
牧野 孝子(斎藤)  
遠藤 泰紀  
◆S37年卒  
渡辺 光寛  
宮下紀恵子  
佐谷戸 実  
寺村 光司  
◆S38年卒  
羽柴 美枝(五十嵐)  
小野 勲  
◆S39年卒  
河北 迪子(浅沼)  
湯浅美保子(奈良)  
荒川 正  
藤尾 誠  
鶴岡由美子(白井)  
豊田 美子(関根)  
◆S40年卒  
鳥飼 重和  
井上 芳子  
小山ゆき子(吉田)  
杉浦 重治  
◆S41年卒  
萩原加代子(松岡)  
小室 民夫  
原 淑子(近藤)  
岩崎 淳(村越)

- 吉田 恵子(吉田)  
長谷川三枝子(原)  
尾道 郁代(大橋)  
◆S42年卒  
米谷 省吾  
増田 恵一  
皆川 和実  
唐木 千曉  
菊池 武博  
◆S43年卒  
鈴木 幹夫  
榎本 裕子(高橋)  
石川 明枝(石川)  
◆S45年卒  
金澤 信子  
仙谷 剛  
宮久保 渡  
◆S46年卒  
恩村 一郎  
田島 純子(阿部)  
笹山 菜子  
◆S47年卒  
佐々木郁子(遠野)  
◆S48年卒  
須賀 福子(牧野)  
◆S49年卒  
小谷賀津子(岡本)  
今出 隆久  
大野 一朗  
高見 健二  
高見 節子(安原)  
◆S51年卒  
渡辺 陵子(木村)  
◆S54年卒  
小椋山大介  
◆S58年卒  
篠野 敏弘  
◆S59年卒  
千田二仁江(樋口)  
◆S61年卒  
今井美代子(清水)  
◆S63年卒  
目黒 利枝(菊池)  
◆H元年卒  
横山 信夫  
◆H5年卒  
高橋 康隆

### 会費納入者名一覧

- ◆H22年卒  
高崎さつき  
◆H23年卒  
東海林耕一  
◆S21年卒  
高木 芳江(高木)  
石川 和子(柴崎)  
堀田 惠津(山田)  
井上 早苗(阿部)  
永井 節子(小籠)  
◆S25年卒  
本多美代子(今井)  
◆S27年卒  
太田 きよ(太田)  
瀬戸口弘子(馬場)  
高橋 清子  
佐藤 陽子  
安土 靖子(川崎)  
上原 茂子(荻原)  
幸田 俊子(岩田)  
長谷川千代(中沢)  
酒井美代子  
津雲 貞子(松出)  
◆S28年卒  
岩松 英子  
中村 弥生  
鈴木 梅代  
堀 満彦  
江島 きく(荒川)  
内山 昴子(豊田)  
黒川 淳洋  
小林 恰子(足立)  
早船セツ子  
◆S29年卒  
鈴木 祐子(山崎)  
大西 弘明  
◆S30年卒  
葉山美佐子(徳永)  
山田 順一  
西正 トミ(市川)  
中川 貴子(山崎)  
長縄 信孝  
上出 明

- 広江 英一  
若木 康孝  
中村 素子(河野)  
福原 淑子  
◆S31年卒  
中島 徹  
松居 晃  
姫野千代子(近藤)  
水津 信雄  
村上 満男  
田中 澄子(小粥)  
山田 和子(釘宮)  
塚本トメ子(佐藤)  
池野 通(高橋)  
佐藤佐江子(森)  
鈴木やす代(渥美)  
小林 啓子(小川)  
二瓶恵美子(佐枝)  
遠藤 恭子(山田)  
深瀬 恒矣  
◆S32年卒  
津坂 敬子(石神)  
佐藤 元是  
春川 園子(勢)  
藤沢寿美子(竹内)  
木村 恵子(佐藤)  
小西 圭子(城)  
佐久間博子(若垂)  
◆S33年卒  
中河 健男  
西村 哲郎(小寺)  
◆S34年卒  
植山榮次郎  
郡司 茂代  
乙部たみ子(新名)  
若林紀代子(三日月)  
本多 重行  
柴田 誠吾  
藤田 皓一  
鈴木 紀(菅原)  
藤崎寿美江(岩田)  
国府出美恵子(島田)  
三木 桃子(竹谷)  
古林 徹  
田牧 紘一  
富澤 久男  
◆S35年卒

- 大久保圭子(大久保)  
小島 洋子(鳴)  
三浦みさ子(江島)  
安井 道昌  
安井 和子(大極)  
小山たき子(中津)  
永沢 治子(山本)  
難波田久子(上井)  
清水 幸明  
山本 一智(高橋)  
浜部仔嬬子(佐原)  
◆S36年卒  
大野 久子(里見)  
寺尾ヒロミ  
真塩 共栄  
我妻 真典  
三野 洋子(前原)  
田中 正明  
◆S37年卒  
板谷 勝  
岩田 昭  
酒井貴世子(野辺)  
今村 春江(星)  
鈴木多可子(浅賀)  
永井 良子(樋口)  
高橋 悦子(奥山)  
小黒 由明  
牧野 進  
片岡 邦枝  
浅原婦美子(野原)  
山住 暎子(福島)  
◆S38年卒  
桜井 昭子(筒山)  
宮澤 博子(興津)  
太田 和子(豊田)  
谷口 昭夫  
◆S39年卒  
北田 照子(大山)  
広瀬美代子(野中)  
木内 明代(山口)  
能州 慶次  
盛岡 治英  
上野美江子  
北村 芳子(亀山)  
◆S40年卒  
相澤 妙子(戸川)  
橋 明

- 秋山 浩一  
林 幸枝  
大西 政男  
澤田 孝子(藤村)  
阿部 裕子(山田)  
◆S41年卒  
渡辺 恵美(高田)  
町田 悦子(藤)  
戸田 光子(土井)  
廣瀬 文生  
井村 忠  
溝口 進一  
◆S42年卒  
橋川 道雄  
渡辺 幸恵(山永)  
櫛田 昭良  
横山 正夫  
◆S43年卒  
鈴木 徹  
山邊 光久  
豊野 英正  
中村 良恵  
◆S44年卒  
加藤 篤子(内藤)  
秋谷 実  
松上 恵一  
飯野 正則  
加藤 和子(堤)  
◆S45年卒  
石田 悦子(丸山)  
中村恵太郎  
加藤 清一  
◆S46年卒  
小池 二美(飯島)  
宮浦美恵子(北上)  
久保田延弘  
◆S47年卒  
栗原 素子(孤川)  
丹下 薫  
長谷川教子(高倉)  
堀田 睦夫(赤沼)  
矢島 明子(鈴木)  
◆S48年卒  
渡部 眞澄(吉池)  
遠藤 清孝  
渡部 敏雄  
飯桶 光子

- ◆S49年卒  
川島 清次  
石井徳太郎  
横山久美子  
上野 一成  
◆S50年卒  
大西 絹子(山口)  
永井すずみ  
梶 友寿  
◆S52年卒  
五味 和之  
◆S53年卒  
中沢香代子(近岡)  
◆S54年卒  
松尾 佳子  
◆S56年卒  
武智 弘英  
◆S57年卒  
成岡 美佐  
◆S58年卒  
梓澤 秀昭  
◆S59年卒  
木下 玲子(川井)  
◆H5年卒  
阿部 直子(雨宮)  
◆H6年卒  
高橋 育男  
◆H10年卒  
高橋 美法  
◆H11年卒  
古田 宗弘

**運営費にご協力をお願い**  
 会活動活性化に向け、ご提案・ご寄付・年会費等  
 のお振込みを、ご協力お願い申し上げます。



平成24年総会資料  
都立向丘高校同窓会 平成24年4月22日(日)  
《報告事項》  
[事業報告]  
平成23年度分  
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)  
I 役員会(幹事会)  
H23年4月3日(土)  
会計監査会 3名参加 於 小川事務所  
H23年6月11日(土)  
総会懇親会の反省兼小川前会長をねぎら  
う会  
15名参加 於 駒込磯太郎  
H23年12月3日(土)  
会報企画(案)打合せ忘年会 10名参加  
於 駒込磯太郎  
H24年1月14日(木)  
次年度計画と原稿持寄り会 10名参加  
於 北区東田端地域振興室  
H24年3月31日(日)年度末反省と納会  
9名参加 於 駒込磯太郎

II 総会記念演奏会 於 母校6階ホール  
H23年4月29日(金) 14:30～15:30  
出演母校吹奏楽部 指揮 前原 寛先生  
いつもながら真面目で立派な演奏でした。  
観衆50名程。同窓会から激励意味で謝  
礼をした。  
会員の参加少なく淋しく思われた。

III 総会/懇親会 於 母校6階ホール  
H23年4月29日(金)  
13:30～ 例年のとおり少数参加20数名  
参加  
事業報告・予算案審議等可決承認されま  
した。  
役員改選にあたり、小川会長より、ご勇  
退の申し出があり、新会長に宮久保氏が  
推挙され承認されました。小川前会長は  
名誉顧問となりました。  
16:00～ 懇親会 新卒者・新成人に大  
いに呼び掛けをしているものの少数参加  
でした。残念でした。

IV 研究活動(全国大会)  
H23年9月3日(土)～4日(日)  
合同旅行会  
16名参加 於 熱川シーサイドホテル  
H23年9月17日(土)～18日(日)  
向陵祭に写真作品を出展 3名参加  
於 母校3階会議室  
「田中・川端・小川氏」  
両日にわたり役員参観あり 10名参加  
於 母校3階会議室  
H23年9月18日(日) 15:30～16:30  
P T A関係者と懇親会 8名参加  
於 母校3階会議室  
H23年10月17日(月)札幌大会を開催  
6名参加 於 市内 小料理「一心」  
「会報22号4頁参照」  
H24年3月9日(金)卒業式予行会に  
宮久保会長が出席し、同窓会入会につ  
いて御礼と4月22日の件について壇上  
から説明をし、参加を喚起した。  
於 母校体育館  
H24年3月23日(金)入学説明会に宮  
久保会長が出席し、卒業時に当会入会  
の件について生徒・保護者に会長が壇上  
からお願いした。 於 母校体育館

V 会報関係  
H23年12月3日(土) 会報企画打合せ  
10名参加 於 駒込磯太郎  
H23年1月14日(土) 次年度計画と原  
稿持寄り会 10名参加  
於 北区東田端地域振興室  
H24年1月18日(水) 割り付け  
3名参加 於 豊島区宮久保事務所  
H24年2月14日(火) 第一回校正会  
3名参加 於 豊島区宮久保事務所  
H24年3月9日(金) 卒業予行会に配  
布できるよう母校に搬入した。1200  
部(在校生750、新入生250、学校等)  
H24年3月31日(日) 打上げ会を行った。  
9名参加 於 駒込磯太郎

VI 渉外関係

H23年4月7日(水)  
入学式に小川会長と田中相談役が参列し  
た。 於 母校体育館  
H23年6月3日(金)  
P T A総会後の懇親会に招かれ宮久保会  
長が参加した。  
於 カフェ・ボラール  
H23年11月27日(日)  
小川前会長を囲む会に宮久保会長と小川  
前会長が参加した。  
於 上野池之端「水月ホテル鴨外荘」  
「会報22号5項参照」  
H24年3月10日(土)  
卒業式に宮久保会長と小川前会長が参列  
した。 於 母校体育館  
H24年3月10日(土)  
卒業式を祝う会に宮久保会長が参加した。  
於 上野精養軒

VII 振興助成

S15年卒酒井和美幹事(239名)及S  
51年卒宮沢政明幹事(186名)に同  
期会お呼び掛けに対し助成した。  
「会報22号9項参照」  
H23年7月  
母校体育館に洗面台を寄贈 「会報22  
号6項参照」  
H24年3月4日(金)  
第63回卒業生の入会者229名について、  
入会記念品としての個人用特注印鑑を予  
行日に各組担任先生からお渡しを戴いた。

[決算報告] 左記のとおり

[事業計画]

平成24年度分  
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

- I 総会・懇親会(新成人を祝う会)開催の件  
やよい22号1頁参照 H24年4月22日(日)
- II 全国大会・やよい会埼玉県浦和大会開催の  
件  
やよい22号1頁参照 H24年6月17日(日)
- III 向陵祭参加とホームカミング開催の件  
やよい22号1頁参照 向陵祭  
H24年9月22日(土)～23日(日)  
9月23日(日)15:30～懇親会開催予定
- IV 同期会・クラス会等への通信費  
呼びかけ人数1通につき¥200 報告文  
を受け取り次第、代表幹事の指定口座宛お  
振込致します。会合の集合写真等を添えて  
宮久保会長宛速やかに郵送して下さい。
- V 広報誌の発行と発送  
(会員相互の意志の疎通を図るため)  
平成25年3月に“やよい”23号発行の予  
定(会員・クラス会・同期会等の適切な投  
稿を歓迎)。  
原稿締め切りは1月末とする。
- VI 新卒業生の入会者に記念品特注印鑑セット  
を贈呈する。
- VII 在校生に対する応援事業  
クラブ活動などに助成、学校・P T Aと協力  
をお願いし、O Bによる講演会等の企画
- VIII 年会費、寄付金ご協力をお願い  
新卒者の入会金の殆どは会報関係に充当。  
年会費は1口¥1,000～¥2,000程  
度運営費としてご協賛をお願い致します。  
年会費込み3,000円以上の送金は寄付金  
扱いと致します。
- IX ホームページ作成  
今年度より同窓会独自でホームページを作  
成いたします。
- X 次期定期総会の件  
やよい23号紙上にて発表予定

[予算] 左記のとおり

平成23年度会計報告及び及び平成24年度予算

都立向丘高等学校同窓会  
平成24年3月31日

	23年度決算	24年度予算
収入の部	金額	金額
入会金(229名)	1,832,000	1,800,000
年会費(含寄付金)	835,000	800,000
総会懇親会費	44,000	50,000
全国大会費	12,000	50,000
諸会費収入	46,000	50,000
雑収入	4,000	0
前年度繰越金	2,939,024	2,489,410
収入合計	5,712,024	5,239,410

	金額	金額
支出の部	金額	金額
全国大会関係費	130,335	100,000
交通費	82,000	100,000
通信印刷費	78,242	100,000
会議費	132,446	150,000
総会懇親会費	153,343	150,000
催物関係費	143,676	150,000
慶弔費	102,800	100,000
研究活動費	144,992	150,000
振興助成費	85,790	100,000
会報関係費	1,550,000	1,600,000
渉外費	76,000	100,000
改葬費		500,000
生徒激励費		100,000
卒対費	80,150	100,000
周年準備費	250,000	0
雑費	210,840	10,000
支出合計	3,220,614	3,510,000
次年度繰越金	2,489,410	1,729,410
総合計	5,710,024	5,239,410

上記の通り収支報告申し上げます。  
平成24年4月22日 同窓会会長 宮久保 渡  
会計 尾道 郁代 長谷川三枝子  
監査の結果誤りの無いことを認めます。  
平成24年4月7日 監査 石山彼早子 寺村 光司

# やよい俳壇

檜 紀代選 (S31 佐藤令子 旧姓 安藤 俳誌「遠矢」主宰)

知らぬ地の地図を片手や天高し S27 森重 竜郎 (龍彦)

あと戻りかなはぬ枝のかたつむり

しなやかに揺れ猫の尾と雪柳 S31 梶田 仍美 (旧姓 坂口)

猫の意に気付きて隠し金魚鉢

梟の昼は童話を思索中 S31 麻生やよひ (山本越子旧姓 福永)

花痕れとどのつまりは人痕れ

## 檜 紀代吟

再生の光の溢れ芽吹き山  
列島はもろきと知れよ柵一葉



俳句のお仲間になりませんか？  
年月は残酷なものです。自分の中では、あの頃とちつとも変わっていないはずなのに、突然、耐用年数が過ぎたとも言いたげに、終息を告げられてしまいます。ほんとうに終りは、ある口突然に……なのです。せめて存在した証しを残しませんか？それも一七文字で。  
「遠矢」誌は毎月、国会図書館に保存されています。最初は、鉛筆と紙と、あなたの意思があればいいのです。  
ご連絡、お待ち致しております。  
連絡先 麻生やよひ (山本 越子 旧姓 福永)  
TEL&FAX 03-35332-7489  
e-mail: eisultra@ae.aone-net.jp

## 計 報

- 木元 保子 S27年卒 H21.7.6 享年75歳
- 大久保邦重 S28年卒 H23
- 吉岡 弘 S31年卒 H20
- 桧尾 勝司 S31年卒 H24.12.21 享年74歳
- 三林 雅子 S33年卒 H23.8 享年71歳
- 保科 祐子 S36年卒 (旧姓土屋)
- 岩井美佐子 S42年卒 H23.7.12 (旧姓三好)
- 井上 明 S44年卒 享年61歳

心よりご冥福をお祈り申し上げます。  
ご報告のありました方のみを、お知らせしております。

## 同 窓 会 役 員 名 簿

平成25年(2013)年2月20日現在

顧問	新城 昇	歴代校長
"	池 永 武 昭	"
"	北 村 透	"
"	北 村 正 生	"
"	石 井 隆 夫	"
"	戸 谷 賢 司	"
"	前 園 実	"
"	岡 根 茂	"
名誉会長	神 能 精 一	校 長
名誉顧問	小 川 力 洋	31年卒
会 長	宮久保 渡	45年卒
副 会 長	三 出 昌 男	31年卒
"	杉 浦 重 治	40年卒
会 計	尾 道 郁 代 (大橋)	41年卒
"	長谷川 三枝子 (原)	41年卒
書 記	笹 山 幸 子	46年卒
"	佐々木 郁 子 (遠野)	47年卒
"	今 井 美 代 子 (清水)	61年卒
"	日 黒 利 枝 (菊池)	63年卒
会計監査	石 山 彼 早 子 (佐伯)	34年卒
"	寺 村 光 司	37年卒
幹 事 長	櫻 井 弘 清	32年卒
副幹事長	仙 谷 剛	45年卒
西日本地区幹	高 尾 和 子 (杉本)	31年卒
新潟地区幹事	小 山 ゆ き 子 (吉田)	40年卒
仙台地区幹事	吉 田 恵 子 (吉田)	41年卒
静岡地区幹事	増 子 明 美 (若尾)	31年卒
茨城地区幹事	友 部 佳 子 (立川)	35年卒
札幌地区幹事	恩 村 一 朗	46年卒
事 務 局	八 百 板 真 弓	副 校 長
相 談 役	川 端 春 生 (三橋)	31年卒
"	田 中 正 明	36年卒
"	千 田 二 仁 江 (樋口)	59年卒